



平成 30 年 5 月 30 日

【照会先】

政策統括官付参事官付世帯統計室

縦断調査管理官 後藤 敬一郎

室長補佐 川津 雄志 (内線 7473)

室長補佐 柏木 貴久子 (内線 7494)

(担当) 出生児縦断統計業務係 (内線 7566)

(代表電話) 03(5253)1111

(直通電話) 03(3595)2321

第 7 回 21 世紀出生児縦断調査 (平成 22 年出生児) の概況

目 次

調査の概要	1 頁
結果の概要	
1 母の就業状況の変化	3
2 子どもの生活の状況	5
(1) 起床・就寝時間	5
(2) 放課後に過ごす場所	6
3 子育ての意識等	7
(1) 子どもがいてよかったと思うこと	7
(2) 子どもを育てていて負担に思うことや悩み	8
統計表	9
用語の定義	13

この結果は、厚生労働省のホームページにも掲載されています。

アドレス (<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/>)

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、同一客体を長年にわたって追跡する縦断調査として、平成 22 年に出生した子の実態及び経年変化の状況を継続的に観察するとともに、21 世紀の初年である平成 13 年に出生した子を継続的に観察している調査との比較対照等を行うことにより、少子化対策等の施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的としている。

2 調査の対象

全国の平成 22 年（2010 年）5 月 10 日から同月 24 日の間に出生した子を対象とし、厚生労働省が人口動態調査の出生票を基に調査客体を抽出した。双子、三つ子についてもそれぞれの子を対象としている。

第 7 回調査における対象児は 7 歳（小学 1 年生）である。

3 調査の時期

平成 29 年 5 月 25 日とした。

（参考：第 1 回調査から第 6 回調査は 12 月 1 日である。）

4 調査事項

父母の就業状況、家族の状況、子どもの生活の状況、学校生活・放課後の状況、子育てに関する意識、子育て費用 等

5 調査の方法及び結果の集計

調査票の配布及び回収は郵送により行った。

なお、結果の集計は、厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）において行った。

6 調査票の回収状況等

調査票の配布数及び回収数は次のとおりである。

	配布数	回収数	回収率
第 1 回	43,767	38,554	88.1%
第 2 回	38,523	33,356	86.6%
第 3 回	37,582	32,380	86.2%
第 4 回	34,563	29,582	85.6%
第 5 回	32,830	28,161	85.8%
第 6 回	30,705	27,785	90.5%
第 7 回	29,434	25,397	86.3%

7 利用上の注意

- (1) この概況に掲載の数値は四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合がある。
なお、各図表は集計客体が異なるため、脚注にそれぞれ総数を掲載している。
- (2) 調査回における対象児の年齢は以下のとおりである。

調査回	対象児の年齢
第1回調査	月齢6か月
第2回調査	1歳6か月
第3回調査	2歳6か月
第4回調査	3歳6か月
第5回調査	4歳6か月
第6回調査	5歳6か月
第7回調査	7歳（小学1年生）

注：第7回調査（7歳）は、第6回調査（5歳6か月）から1年6か月後に実施した。

- (3) 表章記号の規約

統計項目のあり得ない場合	・
比率が微少（0.05未満）の場合	0.0

- (4) 「出生児縦断調査（平成13年出生児）」と「出生児縦断調査（平成22年出生児）」の結果を比較する際は、それぞれを「平成13年出生児」、「平成22年出生児」としている。
なお、「21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」は、平成13年1月10日から同月17日の間及び7月10日から同月17日の間に出生した子を対象としたものである。

結果の概要

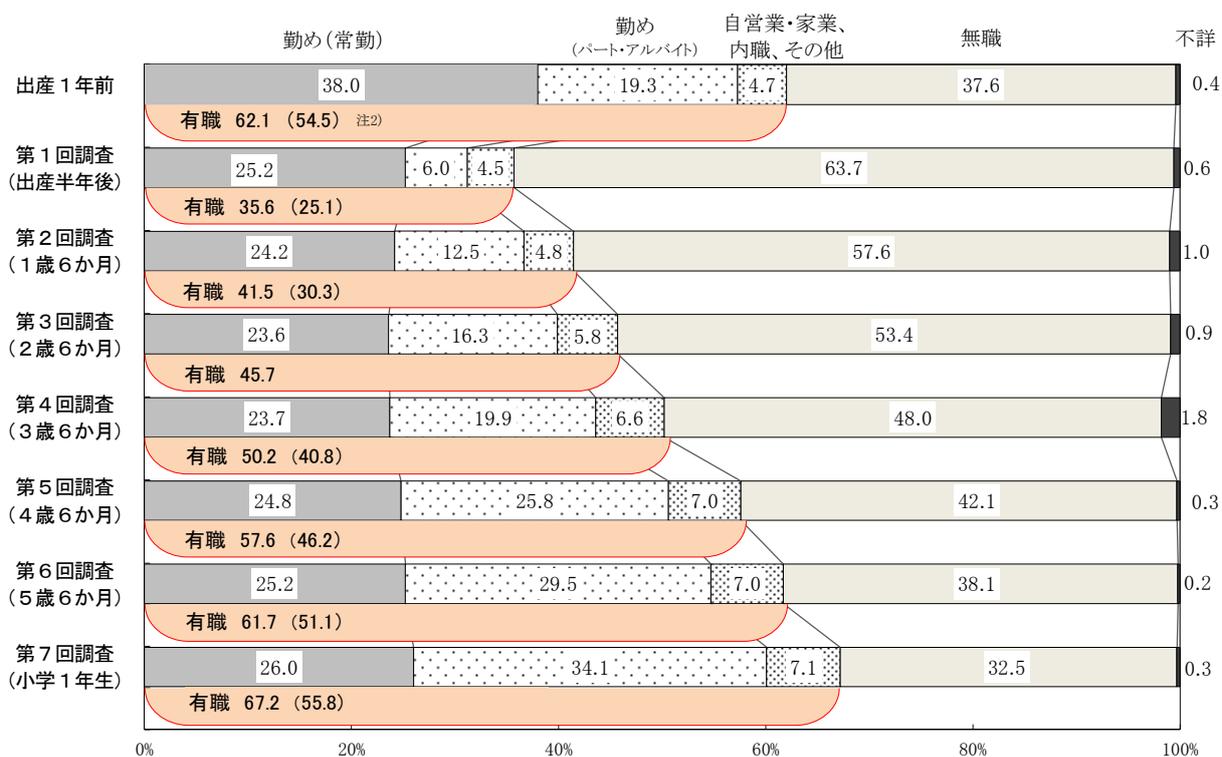
1 母の就業状況の変化

母が有職の割合は第7回調査（小学1年生）で67.2%となり、平成13年出生児（第7回）の55.8%に比べて11.4ポイント高い

母が有職の割合は、出産1年前の62.1%が第1回調査（出産半年後）で35.6%に低下したが、その後は年々上昇し、第7回調査（小学1年生）では67.2%となり、平成13年出生児（第7回）の55.8%に比べて11.4ポイント高くなっている。

母の就業状況の変化をみると、「勤め（常勤）」の割合は、第1回調査（25.2%）から第7回調査（26.0%）まで大きな変化はないが、「勤め（パート・アルバイト）」の割合は、第1回調査（出産半年後）の6.0%から年々上昇し、第7回調査では34.1%となっている。（図1）

図1 母の就業状況の変化・世代間比較



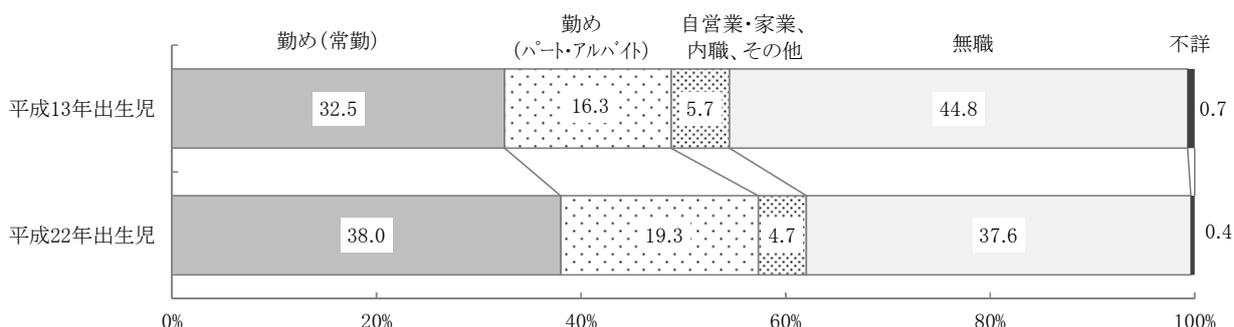
注：1) 平成22年出生児の第1回調査から第7回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数 22,023）を集計。
 2) ()内の数値は、平成13年出生児の第1回調査から第7回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数 33,266）を集計したものである。なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。

出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母のうち、第1回調査から第7回調査まで継続して「勤め（常勤）」の母の割合は、平成22年出生児では40.7%で、平成13年出生児の28.9%に比べて11.8ポイント高い

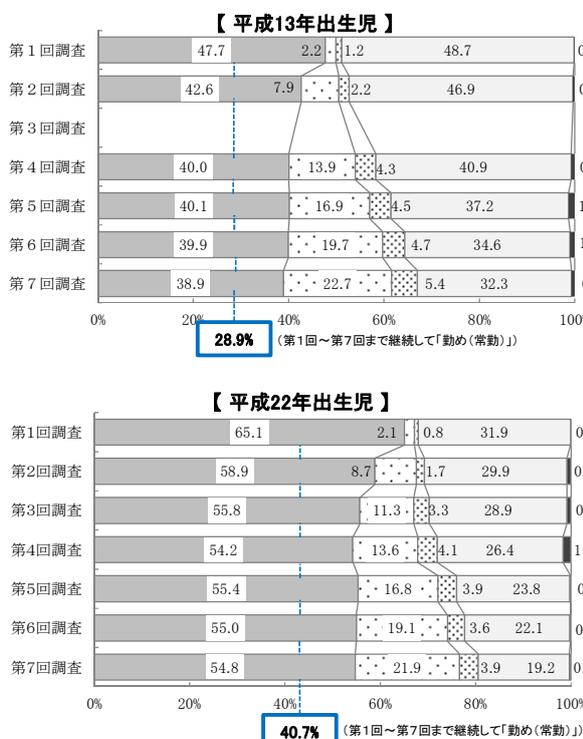
出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母について、第1回調査から第7回調査までの就業状況の変化をみると、平成22年出生児の各回における「勤め（常勤）」の母の割合は平成13年出生児よりも高い割合で推移し、さらに、第1回調査から第7回調査まで継続して「勤め（常勤）」の母の割合は平成22年出生児では40.7%で、平成13年出生児の28.9%に比べて11.8ポイント高くなっている（図2）。

図2 出産1年前の就業状況別にみた母の就業状況の変化・世代間比較

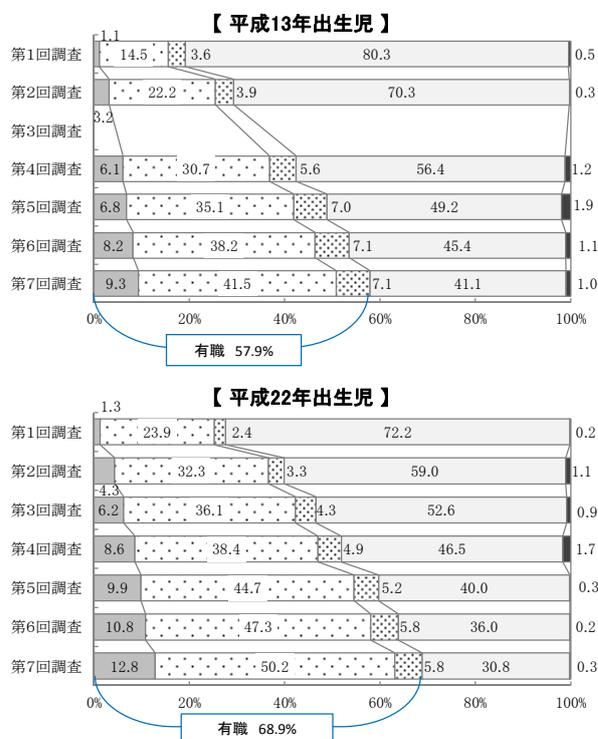
(1) 出産1年前の母の就業状況



(2) 出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母の就業状況の変化



(3) 出産1年前の就業状況が「勤め（パート・アルバイト）」の母の就業状況の変化



注：第1回調査から第7回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（平成13年出生児総数33,266、出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」10,799、「勤め（パート・アルバイト）」5,425、平成22年出生児総数22,023、出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」8,360、「勤め（パート・アルバイト）」4,260）を集計。なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。

2 子どもの生活の状況

(1) 起床・就寝時間

登校日の起床時間は午前7時前が86.2%、就寝時間は午後9時台が61.1%

平成22年出生児について、登校日の起床・就寝時間を第6回調査（平日）と比較すると、起床時間は午前7時前が42.8%から86.2%に上昇している。同様に就寝時間では午後9時前が25.9%から28.7%、午後9時台が54.6%から61.1%に上昇している。（表1）

また、平成13年出生児（第7回）と比較すると、起床時間については、登校日及び日曜日のいずれも午前7時前の割合が上昇しており、就寝時間については、登校日は午後9時前が、土曜日は午後9時前及び午後9時台の割合が上昇している（図3）。

表1 子どもの起床・就寝時間（平成22年出生児）

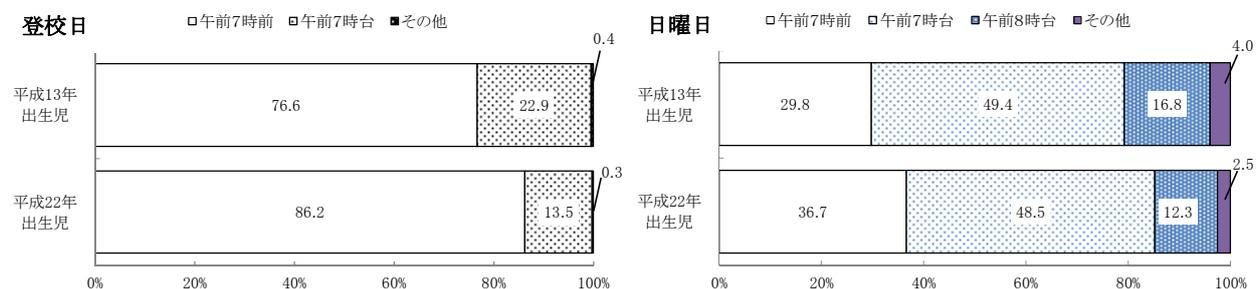
(単位:%)

	総数	午前7時前	午前7時台	午前8時台	午前9時以降	時間が不規則	不詳
起床時間							
第6回調査(平日)	100.0	42.8	51.3	5.2	0.1	0.1	0.4
第7回調査(登校日)	100.0	86.2	13.5	0.0	0.0	0.0	0.2
就寝時間							
第6回調査(平日)	100.0	25.9	54.6	16.9	1.6	0.4	0.6
第7回調査(登校日)	100.0	28.7	61.1	9.2	0.5	0.2	0.3

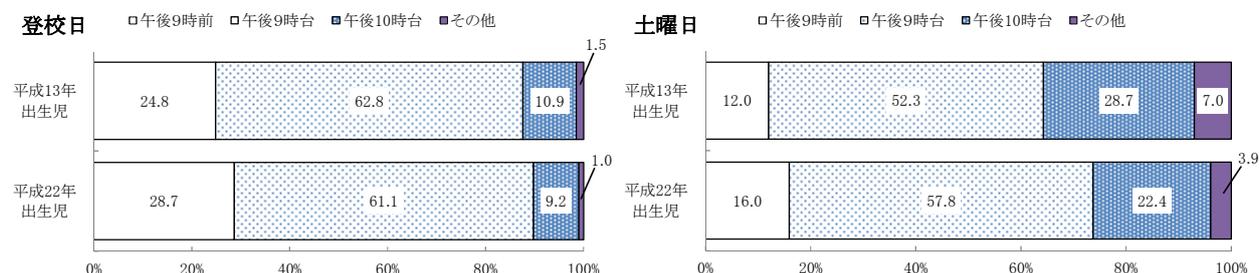
注：各回調査の回答を得た者（第6回調査総数 27,785、第7回調査総数 25,397）を集計。

図3 子どもの起床・就寝時間の世代間比較

【起床時間】



【就寝時間】



注：第7回調査の回答を得た者（平成13年出生児総数 36,785、平成22年出生児総数 25,397）を集計。

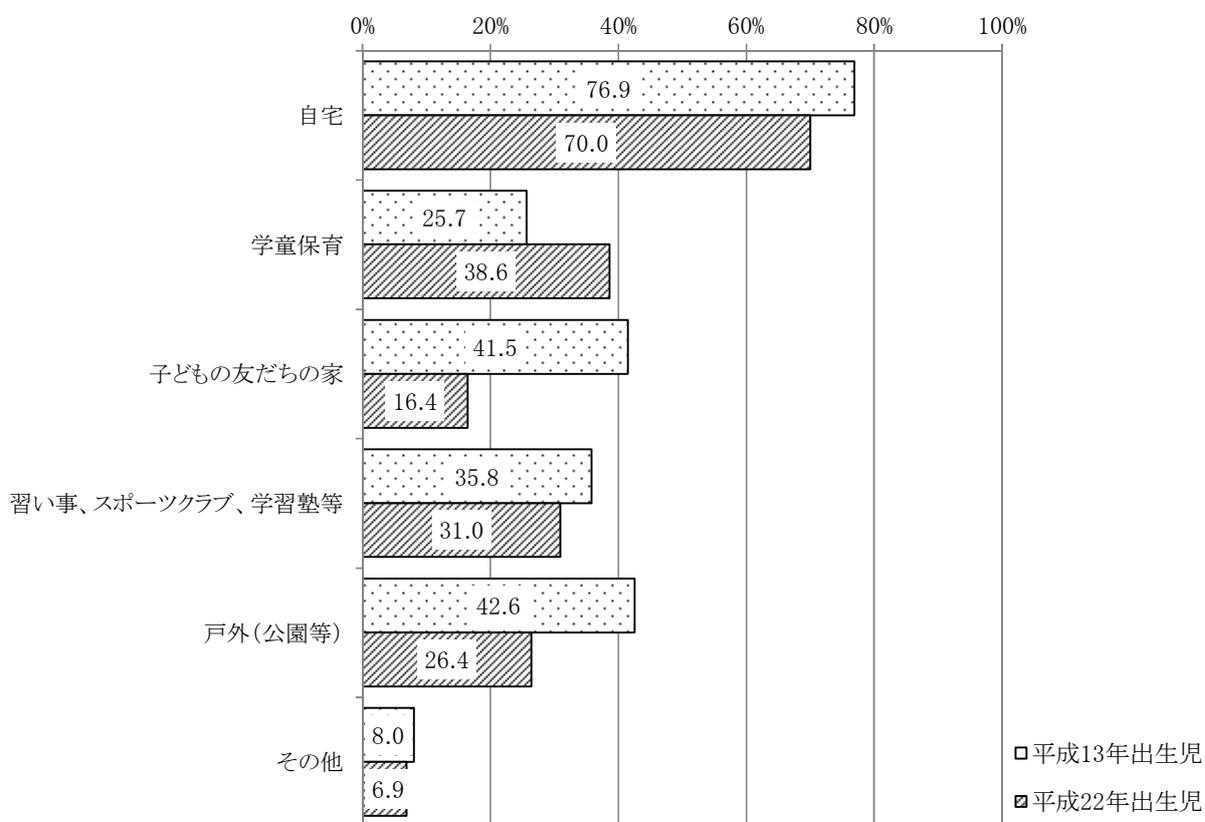
(2) 放課後に過ごす場所

放課後に過ごす場所は、「学童保育」の割合が38.6%と、平成13年出生児（第7回）の25.7%に比べて12.9ポイント高い

平成22年出生児について、放課後に過ごす場所（複数回答）をみると、「自宅」が70.0%と最も高く、次いで「学童保育」38.6%、「習い事、スポーツクラブ、学習塾等」31.0%の順となっている。

また、平成13年出生児と比較すると、「学童保育」の割合が12.9ポイント高くなっており、それ以外は低くなっている。（図4）

図4 放課後に過ごす場所の世代間比較（複数回答）



注：1) 第7回調査の回答を得た者（平成13年出生児総数 36,785、平成22年出生児総数 25,397）を集計。

2) 「放課後」とは、ふだんの下校から午後6時頃までの間をいう。

3 子育ての意識等

(1) 子どもがいてよかったと思うこと

平成13年出生児に比べて、割合が最も上昇したのは「子どもの将来が楽しみ」の12.2ポイント、次いで「子どもの成長によるこびを感じる」の9.9ポイント

平成22年出生児について、子どもがいてよかったと思うことの有無をみると、「よかったと思うことがある」が99.4%となっている（図5-1）。

また、子どもがいてよかったと思うことの内容（複数回答）をみると、「子どもの成長によるこびを感じる」が89.0%と最も高く、次いで「子どもとのふれあいが楽しい」78.7%、「子どものおかげで家庭が明るい」77.8%の順となっている。

平成13年出生児と比較すると、割合が最も上昇したのは「子どもの将来が楽しみ」の12.2ポイントで、次いで「子どもの成長によるこびを感じる」の9.9ポイントの順となっている。（図5-2）

図5-1 子どもがいてよかったと思うことの有無の世代間比較

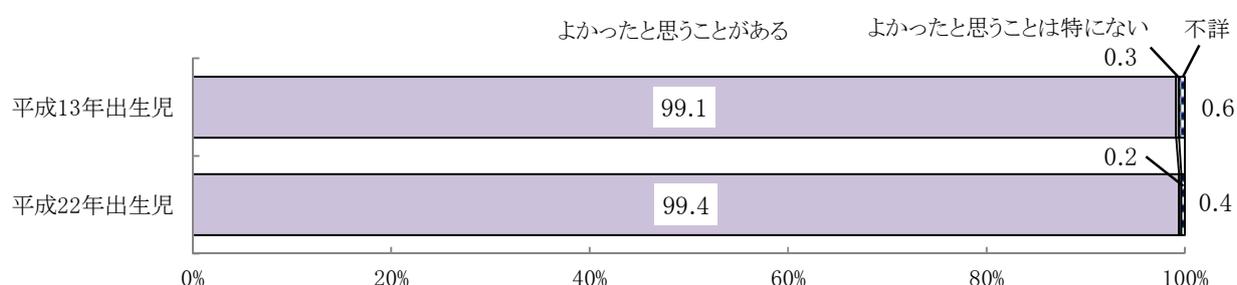
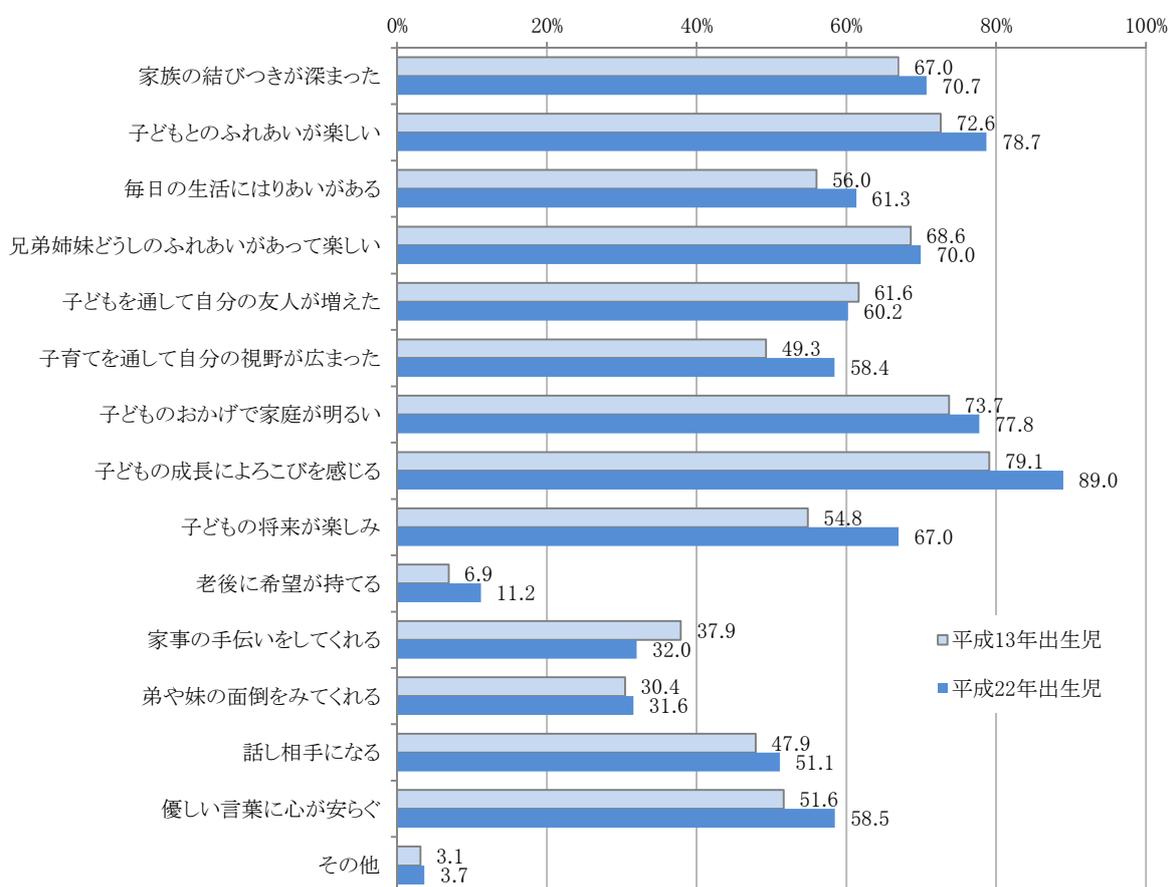


図5-2 子どもがいてよかったと思うことの内容の世代間比較（複数回答）



注：第7回調査の回答を得た者（平成13年出生児総数 36,785、平成22年出生児総数 25,397）を集計。

(2) 子どもを育てていて負担に思うことや悩み

平成13年出生児に比べて、割合が最も上昇したのは「子育てによる身体の疲れが大きい」の9.4ポイント、次いで「自分の自由な時間が持てない」の6.2ポイント

平成22年出生児について、子どもを育てていて負担に思うことや悩みの有無をみると、「負担に思うことや悩みがある」が75.2%となっている(図6-1)。

また、子どもを育てていて負担に思うことや悩みの内容(複数回答)をみると、「子育ての出費がかさむ」が42.0%と最も高く、次いで「自分の自由な時間が持てない」31.7%、「子育てによる身体の疲れが大きい」26.6%の順となっている。

平成13年出生児と比較すると、割合が最も上昇したのは「子育てによる身体の疲れが大きい」の9.4ポイントで、次いで「自分の自由な時間が持てない」の6.2ポイントの順となっている。(図6-2)

図6-1 子どもを育てていて負担に思うことや悩みの有無の世代間比較

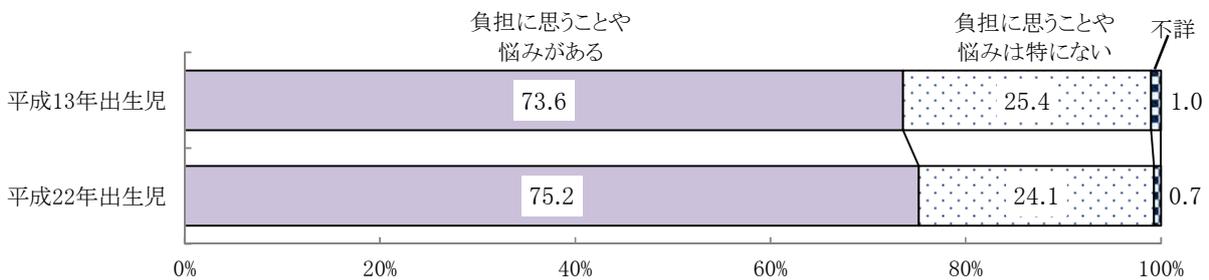
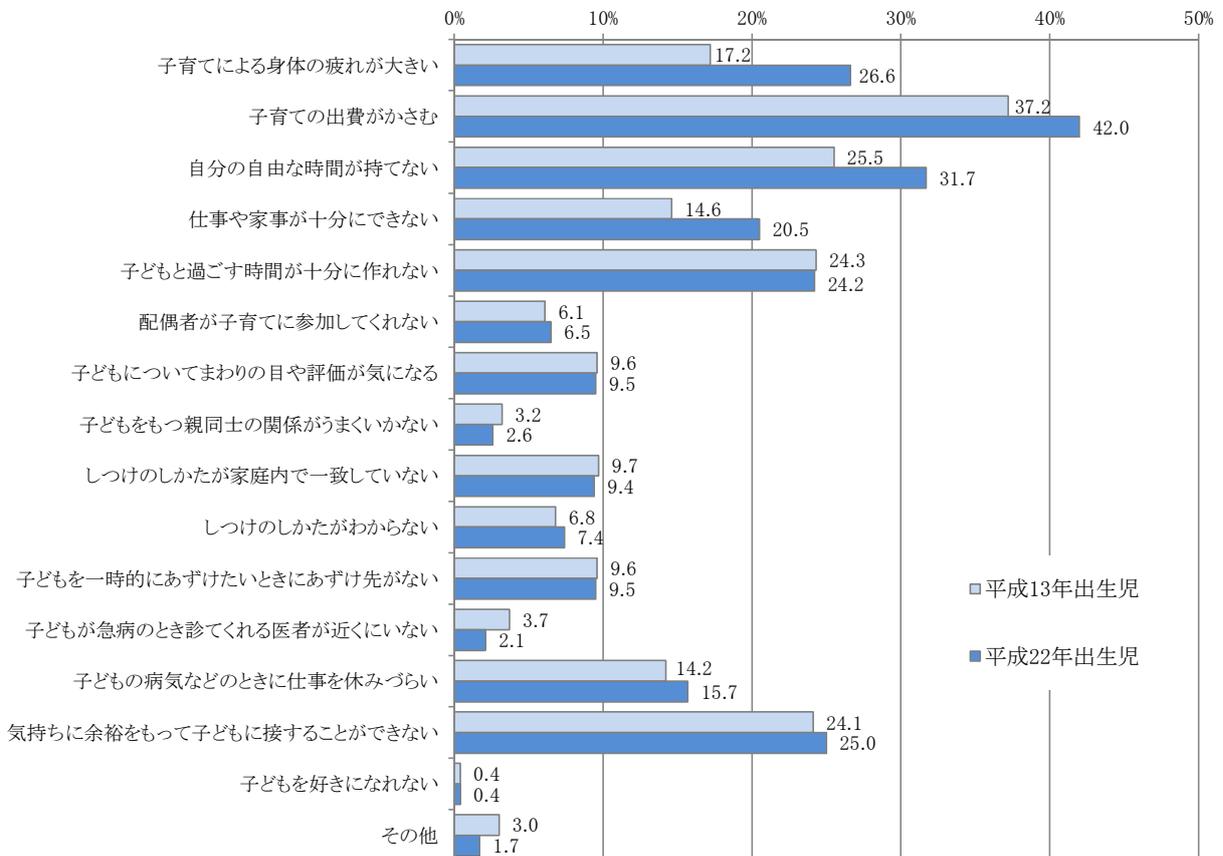


図6-2 子どもを育てていて負担に思うことや悩みの内容の世代間比較(複数回答)



注：第7回調査の回答を得た者(平成13年出生児総数 36,785、平成22年出生児総数 25,397)を集計。

統計表

統計表1 母の就業状況の変化・世代間比較（3頁図1）

（単位：人）

就業状況 調査回	平成22年出生児						平成13年出生児	
	総数	勤め (常勤)	勤め (パート・ アルバイト)	自営業・ 家業、内職、 その他	無職	不詳	総数	有職
出産1年前	22 023	8 360	4 260	1 046	8 279	78	33 266	18 123
第1回調査(出産半年後)	22 023	5 544	1 315	989	14 038	137	33 266	8 351
第2回調査	22 023	5 331	2 743	1 057	12 682	210	33 266	10 080
第3回調査	22 023	5 201	3 600	1 269	11 764	189	33 266	・
第4回調査	22 023	5 216	4 385	1 455	10 574	393	33 266	13 576
第5回調査	22 023	5 466	5 691	1 534	9 272	60	33 266	15 379
第6回調査	22 023	5 546	6 503	1 540	8 381	53	33 266	16 994
第7回調査	22 023	5 718	7 517	1 570	7 159	59	33 266	18 561

注：第1回調査から第7回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者を集計。
 なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。

統計表 2 出産1年前の就業状況別にみた母の就業状況の変化・世代間比較（4頁図2）

（単位：人）

調査回	就業状況	総数	勤め (常勤)	勤め(パート・ アルバイト)	自営業・家業、 内職、その他	無職	不詳	(再掲) 第1回調査から 第7回調査まで 継続して「勤め (常勤)」の母
(1) 出産1年前の母の就業状況								
	平成13年出生児	33 266	10 799	5 425	1 899	14 900	243	
	平成22年出生児	22 023	8 360	4 260	1 046	8 279	78	
(2) 出産1年前の就業状況が「勤め(常勤)」の母の就業状況の変化								
	平成13年出生児							
	第1回調査	10 799	5 149	242	127	5 261	20	・
	第2回調査	10 799	4 597	853	241	5 062	46	・
	第3回調査	・	・	・	・	・	・	・
	第4回調査	10 799	4 323	1 501	467	4 422	86	・
	第5回調査	10 799	4 330	1 829	482	4 013	145	・
	第6回調査	10 799	4 304	2 131	510	3 741	113	・
	第7回調査	10 799	4 201	2 450	578	3 491	79	3 116
	平成22年出生児							
	第1回調査	8 360	5 444	178	69	2 664	5	・
	第2回調査	8 360	4 928	727	145	2 496	64	・
	第3回調査	8 360	4 668	942	274	2 412	64	・
	第4回調査	8 360	4 535	1 135	345	2 208	137	・
	第5回調査	8 360	4 629	1 403	325	1 987	16	・
	第6回調査	8 360	4 599	1 594	299	1 850	18	・
	第7回調査	8 360	4 584	1 828	323	1 603	22	3 400
(3) 出産1年前の就業状況が「勤め(パート・アルバイト)」の母の就業状況の変化								
	平成13年出生児							
	第1回調査	5 425	62	786	193	4 356	28	
	第2回調査	5 425	176	1 206	211	3 815	17	
	第3回調査	・	・	・	・	・	・	
	第4回調査	5 425	332	1 664	304	3 058	67	
	第5回調査	5 425	369	1 903	380	2 669	104	
	第6回調査	5 425	444	2 072	383	2 465	61	
	第7回調査	5 425	506	2 251	386	2 230	52	
	平成22年出生児							
	第1回調査	4 260	56	1 019	102	3 075	8	
	第2回調査	4 260	184	1 375	139	2 515	47	
	第3回調査	4 260	262	1 536	182	2 240	40	
	第4回調査	4 260	365	1 634	207	1 980	74	
	第5回調査	4 260	420	1 903	221	1 702	14	
	第6回調査	4 260	459	2 013	245	1 533	10	
	第7回調査	4 260	547	2 140	247	1 312	14	

注：第1回調査から第7回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者を集計。

なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。

統計表3 子どもの起床・就寝時間の世代間比較（5頁表1、図3）

【起床時間】

(単位:人)

		総数	午前7時前	午前7時台	午前8時台	午前9時以降	時間が不規則	不詳
第6回調査	平成22年出生児	27 785	11 888	平 日		24	26	125
				14 264	1 458			
第7回調査	平成13年出生児 平成22年出生児	36 785 25 397	28 192 21 902	登 校 日		3 1	8 6	128 50
				8 431 3 428	23 10			
第7回調査	平成13年出生児 平成22年出生児	36 785 25 397	10 961 9 315	日 曜 日		640 244	652 309	178 91
				18 188 12 326	6 166 3 112			

【就寝時間】

(単位:人)

		総数	午後9時前	午後9時台	午後10時台	午後11時以降	時間が不規則	不詳
第6回調査	平成22年出生児	27 785	7 206	平 日		434	121	170
				15 168	4 686			
第7回調査	平成13年出生児 平成22年出生児	36 785 25 397	9 140 7 283	登 校 日		245 115	118 50	175 79
				23 089 15 522	4 018 2 348			
第7回調査	平成13年出生児 平成22年出生児	36 785 25 397	4 422 4 051	土 曜 日		1 654 589	700 292	214 99
				19 229 14 667	10 566 5 699			

統計表4 放課後に過ごす場所の世代間比較（複数回答）（6頁図4）

(単位:人)

	総数	放課後に過ごす場所(複数回答)					
		自宅	学童保育	子どもの友だちの家	習い事、スポーツクラブ、学習塾等	戸外(公園等)	その他
平成13年出生児	36 785	28 296	9 439	15 255	13 166	15 656	2 959
平成22年出生児	25 397	17 775	9 805	4 173	7 866	6 708	1 753

注：第7回調査の回答を得た者を集計。

統計表5 子どもがいてよかったと思うことの世代間比較(複数回答)(7頁図5-1、5-2)

(単位:人)

	平成13年出生児	平成22年出生児
総数	36 785	25 397
子どもがいてよかったと思うことがある	36 445	25 237
家族の結びつきが深まった	24 628	17 958
子どもとのふれあいが楽しい	26 709	19 994
毎日の生活にはりあいがある	20 599	15 572
兄弟姉妹どうしのふれあいがある	25 235	17 766
子どもを通して自分の友人が増えた	22 666	15 294
子育てを通して自分の視野が広まった	18 119	14 835
子どものおかげで家庭が明るい	27 118	19 749
子どもの成長によるこびを感じる	29 099	22 595
子どもの将来が楽しみ	20 176	17 010
老後に希望が持てる	2 535	2 837
家事の手伝いをしてくれる	13 943	8 124
弟や妹の面倒をみてくれる	11 196	8 017
話し相手になる	17 611	12 982
優しい言葉に心が安らぐ	18 991	14 848
その他	1 146	928
よかったと思うことは特にない	113	61
不詳	227	99

注: 1) 第7回調査の回答を得た者を集計。

2) 「子どもがいてよかったと思うこと」は、調査対象児について質問したものである。

統計表6 子どもを育てていて負担に思うことや悩みの世代間比較(複数回答)(8頁図6-1、6-2)

(単位:人)

	平成13年出生児	平成22年出生児
総数	36 785	25 397
負担に思うことや悩みがある	27 072	19 107
子育てによる身体の疲れが大きい	6 310	6 746
子育ての出費がかさむ	13 700	10 656
自分の自由な時間が持てない	9 373	8 041
仕事や家事が十分にできない	5 374	5 197
子どもと過ごす時間が十分に作れない	8 946	6 144
配偶者が子育てに参加してくれない	2 244	1 647
子どもについてまわりの目や評価が気になる	3 536	2 418
子どもをもつ親同士の関係がうまくいかない	1 160	660
しつけのしかたが家庭内で一致していない	3 565	2 384
しつけのしかたがわからない	2 512	1 870
子どもを一時的にあずけたいときにあずけ先がない	3 543	2 409
子どもが急病のとき診てくれる医者が近くにいない	1 355	546
子どもの病気などのときに仕事を休みづらい	5 228	3 977
気持ちに余裕をもって子どもに接することができない	8 882	6 349
子どもを好きになれない	162	99
その他	1 121	428
負担に思うことや悩みは特にない	9 356	6 114
不詳	357	176

注: 1) 第7回調査の回答を得た者を集計。

2) 「子どもを育てていて負担に思うことや悩み」は、調査対象児について質問したものである。

用語の定義

(1) 同居者

次の者は含まない。

- ① 長期（概ね3か月以上）にわたって不在にしている者
 - ② 現在不在で不在期間が長期にわたることがわかっている者
- ただし、①、②の者で途中定期的に帰宅する者は同居者としている。

(2) 就業状況

「有職」

勤め（常勤）、勤め（パート・アルバイト）、自営業・家業、内職、その他を合わせたもの
育児休業中等の休業を含む。

「勤め（常勤）」

事業所の所定労働時間を通じて勤務する者

「勤め（パート・アルバイト）」

同一事業所の一般の労働者より1日の所定労働時間が短い又は1日の所定労働時間が同じでも1週の所定労働日数が少ない者

「無職」

家事（専業）、無職、学生を合わせたもの